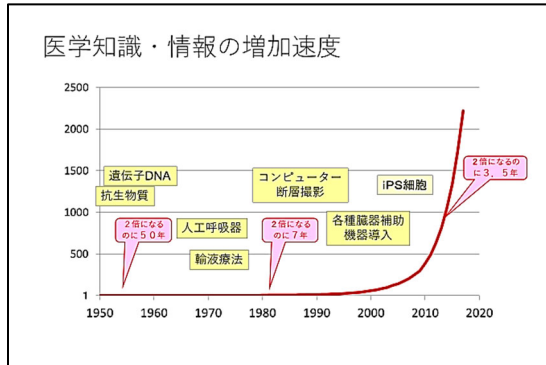


2021年度理系チャレンジ講座（第2回）を実施しました

6月30日（水）に医学部の津村 弘理事を講師に迎え、「医師を目指すとは」～医学の学習 膝関節疾患を例に～というテーマで、理系チャレンジ講座の第2回を実施しました。遠隔配信した大分雄城台、大分鶴崎、大分西、安心院、国東、臼杵の6校100名が受講しました。

津村先生は自己紹介ののち、医師の養成システムや医師としての心構え



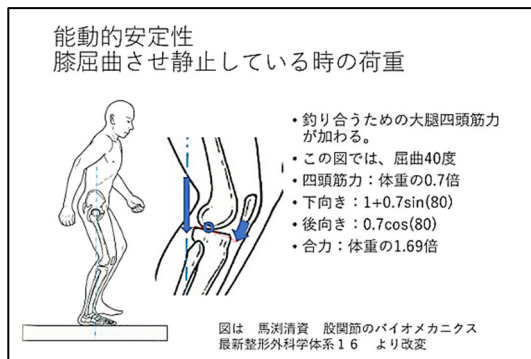
について説明されました。教育の格言として「長旅をする若者には、大量の肉と魚を持たせるのではなく、その取り方を教えろ」というものがあり、医師になるために長い時間をかけて能力や知識を身につけるが、医学の急速な進歩の中で、医師になってからも新しい知識を自ら能動的に学ぶ方法を知る必要があることを説明されました。また、

た、医師になる心構えとして、患者の診断、治療の成功は、患者だけでなく自分の幸せでもあることや、献身的であった方がよいが、感情移入は危険であることなどを説明されました。

後半は、先生のご専門である膝関節疾患についての説明がありました。膝関節を構成するものやその構造を、レントゲンな

医師になる心構え

- 患者の診断、治療の成功は、患者だけでなく自分の幸せでもある。
- 献身的であった方がよいが、感情移入は危険。
- 一生懸命に治療しても感謝されないこともある。その時恨みは禁物
- 医師としての成長は、最も時間がかかる順に
 - 人格の涵養
 - 思考の獲得
 - 知識の獲得
 - 手技の習熟（手技の習熟を急ぎすぎる必要はない。）
- 正直者であれ。



どの画像やモデルを用いたり、座位で膝を45度曲げて止める場合の釣り合いの式を、高校までの物理や数学を用いて解くことが出来たりすることを説明されました。また、膝関節周辺の痛みには様々な要因があることや、日本人に多い変形性膝関節症の進行と症状について話をされ、最後に実際の人工膝関節置換術の様子を映像を用いて分かりやすく説明していただきました。

講義後のアンケート調査は、「総合的に判断して授業がよかった」（99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（97%）という結果でした。「傷んだ骨を削って人工膝関節をつける手術の映像を見て、現在の医療技術の進歩に感動しました」という意見があり、将来医療従事者に就きたい生徒の貴重な体験になりました。

最近の人工膝関節置換術の進歩

- 深屈曲可能な手術法とインプラントの開発
- 軟部組織バランスの調整 (Modified Gap Technique)
- 3次元動作解析 (Fluoroscope)
- 最小侵襲手術
- Navigation
- 新規ポリエチレン (クロスリンク・ビタミンE含有)
- 生理的運動の再現
 - 屈曲すると内旋する機構をBuild inされた機種
- 3次元術前計画
- 患者の評価
- Patient Specific Instrument (PSI)